

研究課題と平成23年度事業実施状況

| 大課題名                        | 中課題名                             | 小課題名                     | 成果名   | 実施状況   | 担当部   |
|-----------------------------|----------------------------------|--------------------------|---|--|---|
| 1 安全、安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得 | 1 安全・安心な農林水産物生産技術の確立             | 4 貝毒被害防止技術に関する研究         | 貝毒についての動向把握   | 毒化指標のムラサキイガイを採集し、検体を福島県衛生研究所に送付し公定法による毒力検査を実施した。【報告書】  | 漁場環境部   |
|                             |                                  | 2 農林水産物の安定供給技術の確立        | 22 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究   | ホシガレイ人工種苗放流技術の開発                                       | 震災により種苗放流中止、水揚げ再開せず市場調査データが得られないため中止。               |
|                             | 種苗放流が遺伝的多様性に与えるリスク評価と低減技術の開発     |                          |   | 放射性物質モニタリングで得られたホシガレイからDNA分析用サンプルを確保した。【報告書】           | 栽培漁業部・相馬支場  |
|                             | 1 ヒラメ人工種苗放流効果向上技術の確立             |                          |   | 震災により種苗放流中止、水揚げ再開せず市場調査データが得られないため中止。新規加入量調査のみ実施。【報告会】 | 栽培漁業部   |
|                             | 2 放流マツカワの産卵生態解明と「産ませて獲る」を実践する    |                          |   | 22年度に実施した調査結果とこれまでの成果概要を報告する。【報告会】                     | 栽培漁業部   |
|                             | 秋サケ漁獲動向調査                        |                          |   | 増殖事業を実施した5河川中3河川の捕獲尾数を整理した。【報告書】                       | 栽培漁業部   |
|                             | アワビ人工種苗放流効果向上技術の確立               |                          |   | 震災により種苗放流中止、水揚げ再開せず市場調査データが得られないため中止。                  | 栽培漁業部   |
|                             | 3 再生産力の向上を目的としたアワビ類の資源管理・増殖技術の開発 |                          |   | 下神白のアワビデータを用い、資源解析を実施した。【報告会】【普及】                      | 栽培漁業部   |
|                             | 磯焼け漁場回復技術の開発                     |                          |   | 環境生態系保全活動支援事業中止に伴い中止。                                  | 栽培漁業部   |
|                             | 23 沿岸性底魚魚類の生態と資源動向の解明            |                          |   | 4 調査船調査データによる新規加入状況の評価                                 | 拓水・こたか丸で調査を実施。主要魚種において23年級が卓越年級であるものは確認されなかった。【報告会】 |
|                             |                                  | 5 新規加入量調査で見られたイシガレイの成長停滞 | イシガレイ漁獲加入量に影響を及ぼす要因となる可能性があることから、イシガレイ当歳魚の成長が停滞する事例について整理した。【報告会】 | 水産資源部  |   |

|    |                    |   |                                  |   |       |
|----|--------------------|---|----------------------------------|---|-------|
| 24 | 底魚資源の管理手法に関する研究    | 6 | 福島県沿岸における操業自粛の水産資源への影響評価         | 緊急時モニタリング調査のサンプルより生物測定データを得た。漁業再開時に操業自粛による水産資源へのプラス効果を数値で示せるよう今後も継続して取り組む。【報告書】                             | 水産資源部 |
|    |                    | 7 | 沿岸漁業の操業自粛によるマコガレイ資源への影響          | 年別・年齢別漁獲尾数からVPAにより、2011～2012年の年齢別資源尾数を求め、2011年3～12月の操業自粛の影響を検討した結果、3歳以上の資源尾数全体の約24%が保護されたものと考えられた。【報告書】【普及】 | 相馬支場  |
| 25 | 浮魚類の持続的利用に関する研究    |   | 主要浮魚資源動向調査(サバ類・イワシ類等)            | まき網水揚げが散発で、調査船による再捕魚のみ測定。【報告書】  | 海洋漁業部 |
|    |                    |   | 主要浮魚資源動向調査(サンマ)                  | 水揚げ27隻中8隻分測定し、標本船5隻のデータ集計。【報告書】   | 海洋漁業部 |
| 26 | 沿岸性浮魚の漁況予測技術に関する研究 |   | 沿岸性浮魚の漁況予測技術の開発(シラス)             | 操業自粛により漁況情報が得られず、調査船調査を中止。2月補正で減額。  | 海洋漁業部 |
|    |                    |   | コウナゴ漁況予測の手法開発(漁況予測に必要な生物調査)      | 操業自粛により23年予測実証未実施(9月補正)。24年予測の調査を実施中。【報告書】  | 海洋漁業部 |
| 27 | 海況予測技術に関する研究       |   | 沿岸海況予測手法の開発(沿岸・沖合漁海況調査)          | 「いわき丸」沈没等の影響により海洋観測の欠測多い。「漁海況速報」は4回休止。【報告書】   | 海洋漁業部 |
|    |                    |   | 沿岸海況予測手法の開発(海況予測手法の開発)           | 「いわき丸」沈没等の影響により海洋観測の欠測多く、予測と検証を中止。  | 海洋漁業部 |
| 28 | 海洋基礎生産に関する研究       |   | 海洋基礎生産力と魚類生産の解明(LNPネット・新稚魚ネット調査) | (独)水産総合センターの委託を受け卵稚子ネット調査結果を整理した。【報告書】  | 漁場環境部 |
|    |                    |   | コウナゴ漁況予測の手法開発(クロフィルa、水温を用いた手法)   | 海洋観測結果等を用いて24年漁期の予測を実施予定。【報告書】  | 漁場環境部 |

|   |                          |    |                         |                   |                  |  |   |         |
|---|--------------------------|----|-------------------------|-------------------|------------------|--|---|---------|
|   |                          |    | 29                      | 海底環境と漁場形成に関する研究   | 震災による人工礁の影響      | 震災により人工礁の設置状況に大きな変化があったかどうかSSSで確認調査を実施した。【報告書】   | 漁場環境部   |         |
|   |                          |    | 30                      | 松川浦の増養殖の安定化に関する研究 | 8                | アサリ生息状況調査  | 6月以降、毎月、成貝では生息密度、肥満度、成熟度、ウミグモの状況、稚貝では発生状況、成長を調査した。【報告会】【参考】 | 相馬支場    |
|   |                          | 9  |                         |                   | 底質調査             | 粒度組成について、水平調査を6,7,9,11,1月に実施した。垂直調査を2月に実施予定【報告会】【参考】   | 相馬支場  |         |
|   |                          | 10 |                         |                   | ヒトエグサ関連調査        | 6月に母藻の残存状況を調査し、母藻の一部を高知大学に送付し、現在育成中。9～10月に採苗試験を実施した。12月に漁業者が管理するノリ網の育成状況を調査し、種場毎、本張り漁場毎に整理した。【報告会】【参考】 | 相馬支場  |         |
|   |                          |    |                         |                   | 水質調査             | 6月以降、毎月定点調査を実施した。【報告書】   | 相馬支場  |         |
|   |                          |    |                         |                   | 海底状況調査           | ROVでの調査は機材の関係で実施できなかったが、ストラクチャースキャンを用いて、年度内に実施予定   | 相馬支場  |         |
|   |                          |    | 33                      | 魚類の防疫に関する研究       | アユ冷水病対策研究        | 浜通り河川での発生報告は確認されず。原発事故等により養殖施設が被害。発生が確認されれば、内水試施設で検査を実施。   | 水産種苗研究所   |         |
|   |                          |    |                         |                   | コイヘルペスウィルス病対策    | 今年度の発生報告は確認されず。今後、発生が確認されれば、内水試施設で検査を実施。   | 水産種苗研究所   |         |
| 2 | 競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立 | 3  | 優良種苗・種畜を安定的に供給するための技術確立 | 97                | 水産生物の種苗性改善に関する研究 | ヒラメ優良種苗安定生産技術の確立   | 施設の津波被害及び原発事故により中止  | 水産種苗研究所 |
|   |                          |    |                         |                   |                  | ホシガレイ優良種苗生産技術の開発   | 施設の津波被害及び原発事故により中止  | 水産種苗研究所 |
|   |                          |    |                         |                   |                  |  |   |         |

|   |                        |   |                                   |     |                         |   |   |       |
|---|------------------------|---|-----------------------------------|-----|-------------------------|---|---|-------|
|   |                        |   |                                   |     | ホシガレイ種苗放流の遺伝的リスクの低減技術開発 | 施設の津波被害及び原発事故により中止                          | 水産種苗研究所   |       |
|   |                        |   |                                   |     | 生物餌料生産技術改良試験            | 施設の津波被害及び原発事故により中止                          | 水産種苗研究所   |       |
|   |                        |   |                                   |     | アワビ小規模種苗生産研究            | 水試施設の一部を利用し、温海水を使用しない種苗生産(採卵等)研究を実施中。(9月補正) | 水産種苗研究所   |       |
| 3 | 自然・環境と共生する農林水産業の推進     | 2 | 環境負荷低減と農林水産業の持つ多面的機能を発揮させるための技術確立 | 123 | 漁場環境保全技術に関する研究          | 11 被害漁場環境調査(藻場干潟回復状況調査)                     | いわき市沿岸の磯根漁場の被害状況、藻場実態調査を潜水や水中カメラ、ストラクチャースキャンを用い実施した。【報告会】<br>【参考】 | 栽培漁業部 |
| 4 | 農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進 | 1 | 漁場環境保全技術に関する研究                    | 144 | 漁獲物の付加価値向上に関する研究        | ふくしまの美味しい魚発掘・活用事業                           | 操業自粛により事業を中止。   | 漁場環境部 |
|   |                        |   |                                   |     | 地域水産資源の再評価と素材化のための技術開発  | 操業自粛により事業中止。2月補正で減額。                        | 漁場環境部   |       |

| 大課題名               | 中課題名               | 小課題名              | 成果名                         | 実施状況   | 担当部   |
|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------------------|--|-------|
| 1 放射性物質除去・低減技術開発事業 | 1 放射性物質が海面漁業に与える影響 | 1 生態特性に応じた蓄積過程の解明 | 12 海域による魚介類の放射性物質濃度の傾向      | 本県沿岸、沖合の魚介類のモニタリング検査用サンプルを検査機関(福島県農業総合センター)へ送付した。(報告書、報告会、放射能)       | 漁場環境部 |
|                    |                    |                   | 13 海水、海底土のモニタリング調査結果        | 本県沿岸、沖合の海水、海底土のモニタリング検査用サンプルを検査機関(福島県原子力センター福島支所)へ送付した。(報告書、報告会、放射能) | 漁場環境部 |
|                    |                    |                   | 14 主要魚の魚体情報と放射性セシウム濃度の関係    | モニタリングサンプルの精密測定を実施し、魚体のサイズ、雌雄等とセシウム濃度の関係を整理。【放射能】                    | 水産資源部 |
|                    |                    |                   | 15 魚介類の餌料生物における放射性セシウム濃度の推移 | 調査船で得られた大型甲殻类等餌料生物の放射エネルギーを測定した。【放射能】                                | 水産資源部 |
|                    |                    |                   |                             |  |       |

|   |                     |    |  |   |         |
|---|---------------------|----|--|---|---------|
| 2 | 水産物における放射性物質低減技術の開発 | 16 | 栽培漁業対象種(ヒラメ等)の放射性セシウムの取込・排出過程の解明       | 放射性セシウム未汚染のマダイ、サザエを地先海水で飼育するとともに、放射性セシウムを含む餌料を未汚染ヒラメ、マダイに与え蓄積と排出の状況を確認する。【放射能】【報告会】 | 水産種苗研究所 |
|   |                     | 17 | 水産生物が取り込んだ放射性セシウムの排出を早める蓄養技術の開発(ウ)     | ウニの餌条件による排出の差を検証する飼育試験を実施した。【報告会】【放射能】  | 栽培漁業部   |
|   |                     | 18 | 水産生物が取り込んだ放射性セシウムの排出を早める蓄養技術の開発(アワ)    | アワビの餌条件による排出の差及び個体差・部位差を検証する飼育試験を実施した。【報告会】【放射能】                                    | 栽培漁業部   |
|   |                     | 19 | 水産生物が取り込んだ放射性セシウムの排出を早める蓄養技術の開発(ホッキガイ) | ホッキガイの砂床・塩分条件による排出の差及び個体差・部位差を検証する飼育試験を実施した。【報告会】【放射能】                              | 栽培漁業部   |
|   |                     | 20 | 水産生物が取り込んだ放射性セシウムの排出を早める蓄養技術の開発(メバ)    | メバルの塩分条件による排出の差及び個体差・部位差を検証する飼育試験を実施した。【報告会】【放射能】                                   | 栽培漁業部   |
| 3 | 放射性物質の局在性に関する調査     | 21 | 水産物における放射性物質の局在性に関する調査                 | イシガレイ、マダラ、ドンコ、アンコウ等について、筋肉以外の部位(肝臓等)の測定を実施【放射能】                                     | 水産資源部   |
| 4 | 海洋生物への移行に関する調査・研究   |    | (なし)                                   | 海洋大海鷹丸調査への参画(成果は1で一括整理)   | 水産資源部   |